

言葉の力：丁寧な言葉（敬語）で大人の仲間入り（公共・社会性の育成）

6年生に出会って5年目。低・中・高の各学年の成長時期に関わらせていただき、個人差はあるもののいろいろな面で成長したなと感じる場面に出会います。その中に言葉づかいがあります。

ある子どもに出会った時から、言葉遣いが何か偉そうで、子どもらしくない言い方が気になり、その都度注意をしていましたが、なかなか理解してもらえず5年生まで来ていました。6年生になってから、この頃は丁寧な言葉や敬語が目立ち、人としての成長を感じています。このような成長は、最高学年になり責任ある行動をとる機会が増えたこと、言語能力が高まり社会への適応力等が身についてきたことの理由からではないかと考えます。学校は公共（社会）の場で、家庭は私的な場所です。社会はいろいろな面で厳しいものです。言葉づかいは、やがて

社会に対応できる力「生きる力」となります。社会でその場にふさわしい言動ができる大人に成長させてあげることが、先に生まれてきた（先生）（大人）の役目かもしれません。子どもはいつも大人を観て育っているのです、私たちも言葉づかいは気をつけないといけません。



なぜ敬語が必要なのか：文化庁が平成15年に行った「国語に関する世論調査」では96%を超える人達が敬語は必要と答えています。その理由は、以下の通りです。

「尊敬の気持を表すことができる」・・・67%

「相手と自分の立場をはっきりさせて、けじめをつけることができる」・・・50%

「表現が柔らかく、人間関係を円滑にできる」・・・46%

「表現が上品になる」・・・25%

校長より：今回は、言葉づかいから感じたことを書きましたが、近い将来子ども達は社会に出てたくさんの方々と人間関係を築き生きていくことになります。人間関係づくりのもとになるのが「あいさつ」や「言葉づかい」です。社会に対応できる言語力をつけてあげることによって子どもの未来（生き方）が変わるかもしれません。何事も出会い（瞬間）が決め手です。その時大切なのは、表情・言葉・礼儀・服装、身なりなどです。場に応じて相手や社会に受けいれられやすい対応能力を身につけてあげることも教室での学習以上に大切な教育です。大人の言動や対応で子どもは教育されています。私達もそのことをよく理解し、考えた対応をしなければ人（子ども）は育ちません。社会に適応する能力をつけるのには、親や教師の務めです。優しさだけではなく、時には厳しい躾も必要かもしれません。